

会津若松市

農業委員会だより

令和4年1月
＝第63号＝

編集発行
会津若松市農業委員会
TEL 39-1351
FAX 39-1482

〔会津若松市農業の概要〕

(資料:2020年農林業センサスより)

・農家戸数 1,718戸 ・農家人口 6,678人
・経営耕地面積 6,642ha (田6,019ha・畑463ha・樹園地160ha)

「おいしい、安全、安心を届けたい」



- 新年のごあいさつ 2
- 令和3年度農地等の利用の最適化に関する改善意見、米価下落対策に関する要望書を市長に提出...3～4
- 農業委員会活動報告 4～5
- ちょっとおじゃまいたします
(市内農家さん訪問) 6～7

主な内容

- 声の広場
未来の農業を担うぼくの目、わたしの目 8～9
- 農業委員会事務局が移転します 10
- 新規就農者との対談 11
- 各種お知らせ、編集後記 12

新年のごあいさつ



新年のごあいさつ

会津若松市農業委員会会長

永井 茂

明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大により、農業委員会活動自粛で、皆様のご期待に添うことができず、残念に思っております。また、長期化するコロナ禍の影響により、食料需要が低迷し稲作農家にとっても、厳しい状況が続いております。更に米価が六十キロ当たり、二千六百円を超える近年にない下落



力強く、魅力ある農業
の実現を目指して

会津若松市長

室井照平

明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、健やかなる新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃から地域農業・農村の振興をはじめ市政の発展にご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う外食産業やインバウンド需要の減少等により、昨年は米価が大幅に下落し、農業に携わってきた多くの皆さまの生活に多大な影響を与えているものと憂慮しているところであります。また、近年の農業従事者の高齢化や担い手の減少、農村コミュニティの希薄化は、農業・農村の抱える大きな課題の一つとなっており、加えて、高温・少雨・晩霜などの

となり、廃業という最悪のシナリオに直面していると云つても過言ではありません。

このような中、農業委員会として、「集落話し合い運動」を通じて、人・農地プランの実質化を始め、農地の集積、集約化、遊休農地の発生防止、解消、新規参入の促進等、農業、農村の持続的発展に向けて、農業委員、農地利用最適化推進委員一人ひとりが、より一層活動に力を入れていく所存です。

近年の日本の食を支える食料自給率は低いのも事実です。

安心、安全、安定の農業経営を目指せるよう、今後も、農業者の代表機関として、人づくり、地域づくりを関係機関と連携し、強力に推し進めて参りますので、昨年同様ご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝と、ご多幸を心から祈念し、新年のあいさついたします。

極端な天候の変化や頻発する自然災害など、地域農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いているものと認識しているところであります。

このような中、市におきましては、力強く、魅力ある農業の実現を目指し、「あいづ食の陣」事業の推進やアイツライスの販売促進を通して会津の食の魅力向上と地元産農産物の生産振興を図るとともに、米価下落により収入が減少した稲作農家や、感染症により打撃を受けた畜産農家、主食用米から飼料用米に作付け転換した生産者への支援にも努めてまいりました。さらに、振興作物の生産拡大やスマート農業の導入、農業・農村の多面的機能の維持・発揮にかかる集落支援にも継続して取り組んでおります。

今後、持続可能な本市農業・農村の実現に向け、農業委員会の皆様と手を携えながら、新たな担い手の育成・確保と、農地の適正管理や集積・集約化、そして集落の将来の設計図となる「実質化された人・農地プラン」の策定支援等、各種事業を進めてまいりたいと考えております。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念し、新年のごあいさついたします。

改善意見概要

(1)認定農業者及び認定新規就農者の候補者の支援について

また、多様な媒体を活用し、認定農業者等の制度についてこれまで以上の積極的な広報を行い、候補者の掘り起こしを行うとともに、認定新規就農者や基本構想水準到達者に対する認定農業者への積極的な誘導を行うことで、将来の担い手を確保すること。

市場の動向を注視しながら、農地中間管理機構関連農地整備事業やそれに伴う機械化に対応できる高収益作物の選定と導入を進めるとともに、当該作物が定着するために県やJA等の関係機関団体と連携し丁寧な技術指導を行うこと。

後付けGPSによる自動操舵システム等の導入に対しても支援を拡充するとともに、スマート農業のメリットに関する講習会を積極的に開催すること。

また、既に先進技術を導入した農業者の成果の発表の場を作るとともに、市においてはコストパフォーマンス等の実証事業の結果を広く周知

(4)人・農地プラン実質化に対する取組の強化について

改めてプランの趣旨等の周知を徹底するとともに、本市農業委員会によるアンケート結果を積極的に活用し、プラン実質化への取組を早急かつ強力に進めること。

中心経営体以外の農業者に対しても積極的な参加を促すこと。

さらに、他地区在住の担い手（入作者）の位置づけについても、集落内で混乱のないように一定のルールのもとで整理すること。

(1)遊休農地解消施策の充実について

国の耕作放棄地再生利用緊急対策事業を参考とした遊休農地解消施策を市単独で創設し、優良農地の確保を図ること。

併せて、多面的機能直接支払交付金等の現行制度の内容について、国・県等と連携し集落等に積極的に周知するとともに、事務手続きの簡素化を国に要請すること。

(2)遊休農地に適した畑作物の選定について

遊休農地を解消し継続して耕作していくための組織づくりの支援を行々とともに、大豆等、遊休農地でも栽培可能な畑作物の選定に積極的に取り組むことにより、遊休農地の有効活用を図ること。

(1)多様な経営体の位置づけについて

①人、農地プランの中心経営体への位置づけにあたっては混乱が生じないように、集落での合意形成過程において、一定の基準に従い、県やＪＡ等の関係機関団体と十分に協議した上で判断すること。

②新たな法人の農業参入等にあつては、県やJA等の関係機関団体と十分に協議した上で判断すること。

(2)新規就農者に対する支援について
市の新規就農者支援センターの機能を最大限に発揮し、就農前に十分な指導を行うとともに、就農後においても成果に対する適正な評価を行いながら、きめ細かい技術指導及び販売先の確保等に関する経営指導や研修を行うこと。

特に、農業次世代人材投資資金受給者については、受給期間満了後に速やかに認定農業者に移行できるように、県やJA等の関係機関団体と一体となった指導を行うこと。

(1) 鳥獣被害対策の拡充

電気柵の購入に係る費用補助の拡充はもとより維持管理経費の補助も検討すること。また、鳥獣被害対策は集落横断的な広域的取組や忌避作物の導入等より効果的な対策を検討すること。

さらに、電気柵の設置場所については、農道がイノシシ等の動線にならないよう、地域の実情に応じ路肩等の設置に、より柔軟に対応できるように検討すること。

併せて、鳥獣被害対策実施部隊の対象鳥獣捕獲隊員については、県猟友会若松支部に増員を要請することに加えて、市の施策として主体的な対策を講じること。

(2)農畜産物の海外輸出の取組について
米の海外輸出については、アフター

コロナを見据え、市「食料・農業・農村基本計画」に位置づけた上で、積極的に県やＪＡ等の関係機関団体と連携し、実現を図ること。

(3) コロナ禍における収入保険制度に関する支援等について

収入保険制度については、コロナ禍により令和2年の収入が減少した際に、翌年の基準収入に影響を与えない特例措置が講じられたところであることから、令和3年以降も同様の対応を取るとともに、米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）の標準的収入額の算定についても特例措置が講じられるよう国等に對して要請すること。

併せて、令和4年の収入保険加入者に対しては保険料のかけ捨て部分への支援を市の施策として行うこと

(4)本市「食料・農業・農村基本計画」の見直しについて

国・県の施策や農林業センサスの結果等も踏まえ、情勢の変化に対応した計画となるよう見直しを進めること。



令和3年10月25日、市長へ改善意見を手渡し、要望を行いました。

米価下落対策に関する要望書概要

併せて、近隣自治体においては既に稲作農家に対する助成金を交付する動きがあることや、米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）及び収入保険制度は対象農家が限定されることなどを踏まえ、全ての農家において次年度以降の農業再生産が可能となるよう、市においても独自の米価下落対策を早急に講じること。



令和3年10月14日、市長へ要望書を手渡し、要望を行いました。

農地利用状況

星
富
士
雄

これは、遊休農地の実状を把握し、これを基に地権者の方を訪問し、今後その農地の利用についての意向調査を行い、遊休農地の解消を図る事を目的に実施するものです。

地権者の努力により一定程度解消

された農地については、部ありますが、特に、山沿いを中心として新たに発生・発見された遊休農地も見られ農家の方の高齢化、担い手の減少、生産基盤の未整備、特に本年は米価下落・収量の減少など農業の多難な時

折笠康裕

令和3年度の農地パトロール及び
作柄調査を実施した所、コロナ禍の
影響で本年は、二か所だけになりま



期にあります。

この様な実状の中、各地区の委員は、地元地権者との話し合いを通じて、遊休農地の解消のために努力をしなければなりません。

皆様のご協力を宜しくお願い致します。

した。

一ヶ所目は、下松窪地内の違反転用の現地確認をおこない、現地は本年7月に違反が確認され、いろいろ部署と協議をしながら所有者に現状回復を指示しているところです。

二ヶ所目は、同地区の雑草イネの調査をおこないました。一見するとイネでは有るが収穫前には籾が全部落下し収量が落ちてしまう。又、毎年雑草イネが発芽してしまい除草剤はないとの事で厄介であります。

調査終了後、検討会を行い、各地区より作柄、新規就農者の営農状況が報告されました。



令和3年度 県下農業委員会大会

総務部会長

高橋 一美

令和3年度福島県下農業委員会大会が11月11日午後1時30分より、福島市のパルセ飯坂にて開催されました。

今大会も昨年同様新型コロナウイルス感染症防止の為、各地区の参加者を制限し、さらに座席も1つ空けて座るなどの対策を取りながらの開催で、本地区からは、会長、会長職務代理人、総務部会長、事務局職員の4名で大会に出席しました。

主催者挨拶後、表彰式が行われ、会津若松市農業委員会は、第38回農業委員会情報紙コンクール表彰において、福島県農業会議会長賞優秀賞を受賞しました。

続いて、福島県知事、JA五連代表の来賓祝辞があり、その後、東京農業大学名誉教授の門間敏幸氏より、「農業・農村コミュニティの活性化と農業委員への期待」の題で記念講演

が行われました。

最後に本県農業の発展に関する要望や、農業委員、農地利用最適化推進委員の活動強化に関する申し合わせが決議され閉会しました。



農業体験協力

広報部会員
大戸地区代表委員

二 瓶 幸太郎

市立大戸小学校の5、6年生が9月24日、同地区の大竹健司農業委員

の管理する学校近くの田んぼで稲刈り体験をし、その講師としてともに参加しました。

6月に児童が自分たちで田植えを行い、子どもたちのために栽培した稲の収穫作業です。

児童たちは、作業のコツなどの説明を熱心に聞き、昨年も作業を体験した6年生は手際がよく、はじめて体験する5年生は悪戦苦闘しながらも一生懸命に作業を行いました。

作業中にトンボやイナゴ、タガメなど生き物を発見し、歓声をあげながら、農作業の大変さや収穫の喜びを体験し、とても楽しそうに作業をしていました。

この日は地区住民の方をはじめ、公民館職員、取材の新聞記者の方や、市役所の広報担当の方がドローン撮影も行い、たいへんにぎやかな稲刈り体験となりました。

これからも、地区の方々と連携しながら小学校の農業体験の協力を続けていきたいと思っています。



加工部長 梶内 裕美子さん



八田野みそ工房は、河東町にある加工施設です。八田野地区は中山間地域にあり、高齢化や担い手不足の問題などから、生産性や収益性に向けた農業経営確立のため、中山間の集落協定を結び制度を利用し、これまで集落活動に取り組んできました。

梶内さん「みそは毎日食べるもの。大豆、麴を作る米は化学肥料を使わず地元で栽培したものので、塩はミネラル塩で安心と安全にこだわった材料を使用しています。」

「集落の女性が集まってメインは冬の間の作業でやつており、これからまた忙しくなります。お客様から頼まれて、みそのオーダーや麴も作ったりもしています。」「お客様は地元をはじめ、口コミが多く、市内はまんまーじや、磐梯の道の駅などにも置かせてもらっています。10年かけて関東方面にもお客様がおり、大変ありがたいことです。」「みその他米麴や塩麴、隣には製粉加工場

梶内さんは、地元JAでのイベントの依頼、市の地産地消まつりへの協力をはじめ、公民館でのみそ作り体験等の講師としても活躍されています。お忙しい中対応ありがとうございます。



市では、6次化に取り組む農

連絡ください。

ほかにも、6次化商品の販売力向上のため、県内のマルシェに出店し、消費者ニーズや効果的な販売方法を学ぶ「チャレンジャー」や、加工用機械の導入支援を行っています。

また、6次化に関する講演会等の開催を予定しています。

市のホームページ等でご案内します。ぜひご参加ください。

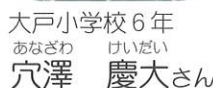
【問合せ】農政課

0242-1391-1253

会津若松市農業委員会だより ※※※※

ぼくたちの

米づくり

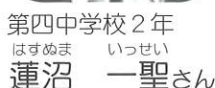


春は、田んぼのどろどろの

春は、田んぼのどろどろの土に稲の苗を植えます。そして秋には、稲を刈ります。どちらも地域の人が手伝いに来てくださるので上手くできると、速く作業を進めることができますが、地域の人々が来ないといふところなのでしょつか。

ぼくは、この活動は、若い
 人に農業を知ってもらい、新
 たに農業を継いでもらうため
 に重要だと思っています。今農業
 では、若い人、やる人が減つ
 てきています。ぼくは、この
 活動をずっと続けていって欲
 しいと思います。そして、農
 業をする若者も増えるとい
 います。

受け継がれて
いく野菜を



私の祖父母は農業をしてい

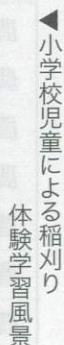
今年、私が職業講話でお話を聞いた長谷川純一さんは、四百年前からあり、一度は途絶えた会津伝統野菜の「余蔘きゅうり」や完熟すると外皮が赤みを帯びた色になる「小菊かぼちゃ」などを栽培している数少ない農家さんでした。

私は長谷川さんが「自分の代で途絶えさせない。」と次代に会津伝統野菜を継承しようとする強い志に感動を覚えました。

農作業については、祖父母の手伝いで経験があります。そのときに強烈に残っている印象は「腰が痛い。」で、若いはずの私でも辛いと思うほどの重労働でした。でも、終わつた後は達成感がありました。

私は、改めて農業の大変さを思い出し、野菜を守り、作り続けている人を尊敬するべきと思いました。

農業委員会では、学校の総合学習の一環として実施される野菜作りや田植えなどの農業体験への協力・指導等も行っています。



【新規就農者との対談】

今回、農業委員会会長と対談されたのは、大戸町で野菜農家をされている小山葵さんです。就農3年目の心境をお伺いしました。

●どんな野菜を作り、販売していますか？

A ダイコン、ピーマン、インゲン、ホウレンソウなどを全て有機栽培で作っています。

同じく有機栽培をしている組合に入っており、取引先はスーパーや旅館、東京方面にも販路があります。

●就農するきっかけは何ですか？

A 自然豊かな、生まれ育つた地元がとても大好きで、農業を通じて土地や環境をずっと守っていききたい気持ちがある。



お客様からのおいしいが一番嬉しいです

●就農して約3年目が経過しますが、大変だと思うことはありますか？

A 天候に左右されることが多く、暑さで奇形など高温障害にならないようにこれまで

● 農業をしていくうえで、どのようなことを大切にし、農業をやっていて良かったと思うことは何ですか？

試行錯誤してきました。ほ場の草刈りや手入れなど、また、イノシシなどの被害があるので電気柵の管理もあります。

いろいろなとやることがあり大変で苦勞はありますが、嫌ではなく、楽しくやっています。

● 農業をしていくうえで、どのようなことを大切にし、農業をやっていて良かったと思うことは何ですか？

A 大好きな土地をいかしながら、有機栽培ということもあり、安心、安全な食べ物を届けたという気持ちがあります。父や有機栽培の組合の方などにアドバイスをもらいながら日々勉強しています。

やはり一番は消費者の方に
おいしいと言つてもらつたこと
がとても嬉しいし、苦労はあり
ますが、やりがいや魅力があつ
て楽しいです。



有機を生かしブランド化等で儲かる農業を

●今後の目標はありますか？

A 地質に適した作物の選択を行い、生産技術を磨いて、おいしいと喜んでもらえる作物を作りたいです。収入の安定を目指し、年間を通して安定した収量、規模拡大や多品目の生産で他にはネギの栽培もしてみたいです。短大で学んだ食物栄養学を生かして、将来的には6次化にも挑戦したいと考えています。農業をする同世代がもっと増えて欲しいと願っています。

